特集

学生モニターを中心とした 図書館活用プロジェクト

北村　亘　　水上　恵子

東京都市大学横浜キャンパス図書館では開館２年後の 1999 年から学生モニター制度が設けられてきた．学生モニターは，学生の目線から図書館の現状を点検し改善点を提案することを目的に組織され，毎年 10 名前後が採用されてきた．その活動内容は多岐に渡り，年に２回おこなわれるモニター会議への参加や選書などへの関与から，学生モニターの独自企画であるビデオ上映会などが挙げられる．2017 年の横浜キャンパス図書館のラーニングコモンズ化以降では，その特性を生かしてビブリオバトルや読書会などの企画も学生モニターとともに運営されてきた．今後もラーニングコモンズ化を進めるためには学生モニターが当初の目的である学生の意見の集約をするだけでなく，より自発的な活動をおこなうようになることが期待される．

キーワード：横浜キャンパス図書館，学生モニター，ラーニングコモンズ，ビブリオバトル，読書会

1　まえがき

横浜キャンパス図書館では図書館学生モニター制度により図書館の運営に学生の意見が取り入れられている（荒井ら 2013）．これは，世田谷キャンパス図書館や等々力キャンパス図書館にはない，横浜キャンパス図書館だけの特徴として重要な役割を果たしてきた．近年，様々な大学の図書館で学生モニターに近い制度は設けられているが，1999 年にこの制度を取り入れ今年 20 年目にあたる横浜キャンパス図書館のこの取り組みは，他の大学よりも先進的であったといえよう．

横浜キャンパスでは 1997 年の環境情報学部開設時に２号館内に図書館を開館している．その年の６月の図書館委員会の議事録ではすでに，「検索システム及び貸出管理システム等を今後変更するか，利用者アンケートやモニターを採用するなど行い，今後検討することとした」と記載されており，開館当初から利用者の利便性を意識した図書館づくりが目指されていることが解る．さらに，1998 年７月の議事録においては「学生のモニター制度をどのようにしていくか今後の検討課題とする」，とあり具体的に学生を対象としたモニター制度が早い時期から企画されていた．

実際に図書館学生モニター制度が始まったのは開館から２年後の 1999 年からである．2000 年の第１回図書館学生モニター会議資料では学生モニター制度が始まった経緯として，「図書館はサービス機関であるから，学生が使いやすいように学生の意見を取り入れるために 1999 年度からモニター制度が始まった」とされている．学生モニターの目的は「学生の目で図書館の現状を点検し，図書館長に改善についての意見をのべる」ことであり（2000 年第１回図書館学生モニター会議資料より），その活動は 1）年３回（当時）のモニター会議において図書館長，図書館委員，図書館職員との情報・意見交換および，図書館利用に関する意見を述べること，2）収蔵・選書活動に協力し，収書された図書・雑誌の書評などへの協力をすること，となっている．

学生モニターの募集は主に図書館職員や図書館委員が図書館に来る学生に直接声をかけるなどとしておこなわれてきた．学生モニターの任期は基本的に１年間であるが，多くの学生が続けて翌年以降もモニターとして参加している．学生モニターは会議などに参加する必要がある一方で，貸出冊数が増えるなどの特典があった（当初は通常の学生の貸出冊数に加えて６冊増加であったが，後に 15 冊増加に変更されている）．また，過去の資料から，学生モニター会議の議事録を学生が取るなど，積極的に図書館の活動に参画していた時期があったことも明らかとなっている．

その後，20 年の間に図書館学生モニター制度は続けられてきたが，時代に合わせて活動内容を少しずつ変化させてきている．さらに，2017 年度から始まった東京都市大学横浜キャンパス図書館のラーニングコモンズ化にともない，学生モニターの活動も多様化することが期待される．そこで本稿では，これまでの学生モニターの活動をまとめると同時に，今後の学生モニターの活動

KITAMURA Wataru
東京都市大学環境学部環境創生学科准教授
MINAKAMI Keiko
東京都市大学図書館事務センター（YC）専任課長

への提言を行うことを目的とした．

2 学生モニターの主な役割

1999 年の制度の開始から毎年 10 名前後が学生モニターとして採用されてきている（表 1）．年ごとのばらつきや低学年の学生の参加が少ないという傾向はあるものの，幅広い学年の学生がモニターとして採用されてきた．学生モニターの主な役割として，年に 2 回程度のモニター会議への出席や選書への関与があげられる．また，2009 年ころから 2014 年までは学生モニターを対象としたアンケートがおこなわれており，図書館の運営改善に利用されてきた．学生モニターが中心となった活動も過去には企画されており，例えば，2000 年から 2002 年くらいまでの期間には学生モニターが主体となり図書館でのビデオ上映会がおこなわれていた．

2．1 モニター会議

学生モニター会議は図書館委員，図書館職員，学生モニターの 3 者が集まり図書館の利便性の向上について意見交換をする，学生モニターの中心的な活動である（図 1，2）．

これまでに開催されたモニター会議で寄せられた主な要望は，1）図書館設備の改善（例：案内図の配置，パーティションの設置，什器の変更），2）蔵書の拡充（例：一般書や文芸書などの蔵書も増やしてほしい），3）図書館の検索システムの改善（例：利便性の向上，検索方法の改善，インターネットでの情報発信），4）開館時間や貸出期間の延長，など多岐に渡っている（図書館モニター会議資料より）．ここで集約された要望をもとに，図書館ツアーの実施，選書ツアーの実施，AV ブースの増設及び音楽 CD の貸出，グループスタディルーム利用環境の改善，図書館入館ゲートの入れ替え，館内作業パソコンの設置などが実施されるなど，モニター会議を発端として図書館の運営が改善されてきている（荒井ら 2013）．

表 1 学生モニター数とモニター会議開催数の推移

年度	学生モニター数						モニター会議
	1年	2年	3年	4年	院生	合計	開催回数
1999	不明	不明	不明	不明	不明	9	2
2000	2	1	3	3	0	9	3
2001	0	3	3	1	0	7	2
2002	1	1	2	2	0	6	3
2003	0	1	3	1	1	6	2
2004	1	1	3	5	0	10	2
2005	不明	不明	不明	不明	不明	7	2
2006	0	1	5	7	0	13	2
2007	0	0	6	3	1	10	2
2008	0	2	1	4	1	8	2
2009	0	0	5	2	1	8	2
2010	3	4	2	0	0	9	2
2011	1	2	2	2	0	7	2
2012	1	0	3	3	1	8	2
2013	0	2	5	2	0	9	2
2014	2	2	3	0	2	9	2
2015	1	2	2	3	2	10	2
2016	0	3	2	1	2	8	2
2017	1	0	3	5	1	10	2
2018	4	2	0	3	1	10	2

2．2 選書ツアー

東京都市大学図書館では学生のニーズに合わせた蔵書を収蔵することを目的として年に 2 回の選書ツアーをおこなっている（図 3，4）．選書ツアーは大型書店に職員や学生がおもむく形で開催されている．それぞれの回に 10 名程度が参加し，参加する学生は学部生が 3 万円，院生が 5 万円の予算を割り当てられ，購入したい図書のリストをつくっている．このリストをもとに新たに購入する図書を選ぶため，蔵書の傾向を決定するための重要なイベントとなっている．

かつては春の選書ツアーをキャンパスごとにおこない，秋の選書ツアーを 3 キャンパスの図書館合同でおこなっていた．しかし，近年は学生モニター制度のない他のキャンパスで参加者を集めにくい現状もあり，2 回とも合同でおこなわれるようになっている．横浜キャンパスで選書ツアーが開始された当初は学生モニターのみが参加してきたが，2012 年からは一般の学生も対象

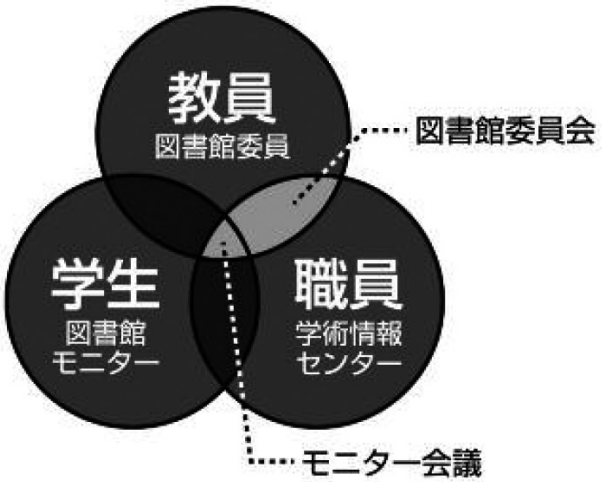

図 1 モニターと教職員との関係（荒井ら 2013 より）

図 2 モニター会議の様子

としている．しかし，参加者の多くは現在も学生モニターである場合が多く（過去には優先的に参加させるなどの措置が取られていた），学生モニターが図書館に関われる場として重要な役割を果たしている．また，2018年度からは選書ツアーの意見交換会も開催し，参加者からのフィードバックを得る体制がとられている．

横浜キャンパス図書館では年に５～６回程度，入り口付近で企画展示を行い図書館の利用をうながしている（図５）．この企画展示と選書ツアーは連動しており，年に２回の選書ツアーで選ばれた図書を学生が紹介する展示が行われている．その際には参加した学生が選書ツアーで選んだ図書に関するポップを作成し，図書と一緒に展示している．

2．3　見計らい図書の選書

見計らい図書とはそれぞれの図書館に必要だと考えられる図書を書店側が「見計らい」，図書館に持ち込んで買取をうながす制度のことを指す．横浜キャンパス図書館でも見計らい選書が行われているが，2005年ころからは学生モニターが見計らい選書をおこなっていた．前期と後期の年に２回，書店から持ち込まれた和書または洋書を学生モニターが空き時間に確認する形で選書が行われていた．この制度は2011年ころまで続けられていたが，2012年ころからはモニター学生に限らない人選での選書ツアーに取って代わっている．

図３　選書ツアーの募集チラシ

2．4　ビデオ映写会

モニター制度が始まった初期には学生モニターが主導で行われた活動の記録が残っており，その一つがビデオ映写会である．図書館にどのようなビデオがあるかを知ることを目的として，ビデオ映写会を開催する提案がモニター会議でなされ，2000年から実際に映写会がはじまった．2001年ころは学期中にほぼ毎週ビデオ上映会がおこなわれている．しかし，2002年には入場者が減るようになり，この年でビデオ映写会はおこなわれなくなっている．

3　ラーニングコモンズ化への対応

2017年から始まった横浜キャンパス図書館のラーニングコモンズ化に伴い，図書館を利用したイベントなども多様化してきている．その中で学生モニターと関連した活動として「よいほんゼミ」や「読書会」が挙げられる．これらの活動は特に学生モニターのみを対象とした活動ではないが，企画の立ち上げに際し図書館モニターに協力を得て開催している．図書館は個人で読書をする場として捉えられがちであったが，ラーニングコモンズ化により複数名で話し合いをすることができるスペースができている．「よいほんゼミ」や「読書会」といった企画もそれぞれ参加者同士がコミュニケーションをとりながらおこなうものであり，ラーニングコモンズ化により開催が可能となった．

図４　選書ツアーの様子

図５　選書ツアー後の企画展示

3. 1 よいほんゼミ

「よいほんゼミ」は一般的にはビブリオバトルというイベントとして知られている．ビブリオバトルとは参加者が面白いと思った本を持ち寄り，プレゼンテーションやディスカッションを通じて，その中でもっとも面白い本を投票で決定するイベントである（谷口 2013）．2007 に考案されたのちに急速的に認知度が広まり，2010 年からは全国大学ビブリオバトルと称して全国大会が行われている．横浜キャンパス図書館では「良い本を紹介する」という意味合いから，「よいほんゼミ」と名づけられ，公式のルールに準じる形で 2018 年度の前期と後期にそれぞれ 1 回ずつ，2 回開催された．

第 1 回は 7 月 20 日（金）の昼休み（12：45 ～ 13：15）に図書館 1 階のフリースタイルエリアで開催された．発表者は学生 4 名と教員 1 名であり，このほかに観戦者として 15 名ほどが参加した．また，多くの参加者にイベントと図書館のラーニングコモンズ化に興味を持ってもらう目的で，図書館で行われたイベントを 4 号館 2 階学生ホールにライブ配信した．もっとも面白い本を決定する手法としてはインターネットを利用した投票システムを用いておこなった．第 2 回は 12 月 13 日（木）の昼休み（12：45 ～ 13：15）に第 1 回と同様の形式で，図書館 1 階フリースタイルエリアで開催された．発表者は学生 4 名と教員 2 名であり，参加者は 16 名であった．また，この回のライブ配信は行われなかった．

3. 2 読書会

2018 年の 12 月 13 日（木）にモニターを中心とした読書会を開催した．読書会の形式は，参加者が勧める本を 1 冊か 2 冊持ってきて，他の参加者の持ってきた本をその場で見て話し合いをするという形でおこなわれる．実験的な企画であったこともあり，教職員 4 名の他に学生モニター 2 名が参加して開催された．参加者の満足度が高かったため，今後も継続的な開催が望まれている．

4 今後の展望

これまでにも学生モニターは図書館の運営に大きな役割を果たしてきた．過去には学生発の企画が行われたり，議事録を学生が作成するなど，学生の主体的な取り組みが見られた．しかし，制度が始まった当初と比較すると学生のかかわり方が薄くなり，モニター会議の参加のみに限られるモニターも少なくない．

これはメディアが多様化したことにより，図書だけが情報を得る手段でなくなったことにより図書館自体の重要性が下がっているため，学生の利用が減少していることと関係しているとも考えられる．すなわち，学生の学習の主たる場として図書館が選ばれにくくなったため，必然と図書館に対する学生の要望なども少なくなってきていると考えらえる．

しかし一方で，ラーニングコモンズ化は図書館がふたたび学習の中心になることを目指すものであり，そこに新たなニーズが生まれれば学生モニターの重要性は高まると考えらえる．学生モニターは図書館の現状を点検して改善に関する意見をのべるために設置されており，ラーニングコモンズ化を進めるには学生の意見集約が必要だと考えらえる．

このためにも学生モニター自身がラーニングコモンズを使いこなすような企画を生み出すことが好ましいと考えらえる．企画展示などの，これまでに教職員が主体でやってきたイベントをモニターが開催したり，新たなイベントの立ち上げをおこなっていくことが好ましい．また，現状では図書館を利用する学生に声をかける形でモニターを募集していたため，自主的な活動に結びつかない現状があった．継続的で自発的な学生モニターの活動をうながすためには，モニターをサークル化するなどして主体的な活動をおこなう学生モニターを育成することも解決策の一つだと考えられる．

引用文献

荒井翔平・堀口健・林真紀（2013）図書館を学生と共働で創るための活動 ―モニター活動の取り組みから見えること―．東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル 14: 1-5.

谷口忠大（2013）ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム．文藝春秋，pp. 262